

# プロジェクト報告書

団体名 (福)白十字会林間学校

自立援助ホーム湘南つばさの家

## ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表紙・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

## 1. プロジェクト名

「社会で暮らす青少年の地域生活自立支援プロジェクト」

## 2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

施設を退所、または家庭から社会に自立をしていく青少年を支える制度は殆どありません。地域で安定した生活を送り、自立をしていく為に、定期的な訪問面会や生活相談を通し、社会的孤立を防ぐこと。また就労相談を通し、就労定着を図る必要があります。この事業は未来の自立援助ホームの機能に結び付く重要な取り組みになります。

## 3. プロジェクトの内容 300文字まで

「地域生活支援の広報活動、啓発活動、相談援助業務」

施設退所後の支援が必要であることを、県内児童養護施設職員研究会、児童福祉関係者有志の勉強会、児童相談所の部会、青年期支援のネットワーク団体などに参加し広報していきました。施設退所後のアフターケアの実情を学び、他機関の見学、関係者とのネットワーク構築、シンポジウムの企画などを通して、社会的養護児童や青年の地域生活支援への啓発活動を行いました。相談援助業務としては、ホームへの入居に繋がった例や、福祉事務所などからの相談などはありましたが、新規の相談件数は少なく、ホームを退居した青年への支援が主になりました。

## 4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

3月に企画したシンポジウムでは多数の参加者で盛況となり、施設退所後支援の必要性を共有しました。青年期支援のネットワークでは、他機関と問題を共有し、新たな支援体制構築に向けて準備を進めていくことも検討し、他団体とは青年期支援の業務提携を結びました。この活動を通した最大の業績は、国の「児童養護施設等アフターケア事業」の委託を県から受けることに繋がったことです。

## 5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

施設退所後の支援、家庭からの地域生活支援の仕組みは、まず広報活動に重点がかかり、具体的な個別ケースの支援までは十分に出来ませんでした。ニーズを拾うには、如何に広報を他機関に浸透させていくか、そして関係機関との信頼関係を構築し、マンパワー含めた支援体制の構築が求められます。その為スタッフを雇用する運営費の課題に突き付けられ、思うように活動出来なかった反省があります。しかし、この1年の活動が県の新規事業の委託を受けるまでに至った機会ともなり、その点においては結果に結び付く活動になったとも言えます。

## 6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり ・  特になし